

連載③
内海善雄の
(ITU前事務総局長)
やぶ睨み
「ネット社会」論

日本国中に蔓延している 「空間識失調」症候群

雲の中や夜間の飛行など、地平線が見えない状況で飛行すると、パイロットが飛行機の姿勢や速度を正しく認識できなくなり、墜落してしまうこともあるという。これは空間識失調（バーティゴ）と呼ばれるが、今日、日常生活のあらゆる側面で、大局を見失い些細なことに拘泥する現象が起きているように思える。

至る所に蔓延するアンバランス

法律施行後、十年を経てもいまだに行われているのは、個人情報保護のための過剰な行動である。会合への出席通知などの連絡用のはがきには、必ず個人情報保護シールが用意される。郵便職員には厳しく通信の秘密を守る義務が課せられ、違反行為は犯罪になる。また、宛先へは、そもそもその情報を知らせ

るために送られるものであるから、何のために保護シールを貼る必要があるのだろうか。

納税者の利便と行政事務の簡素化を図るために多額の予算を投じて構築されたe・Taxも、多くの人が経験したアンバランスの例である。郵便など、書面で確定申告をする場合は、免許証のコピーさえも要求されないが、e・Taxで確定申告をしようとすると、個人認証のために住基カード、同読み取り装置、専用の認証プログラムなどを用意しなければならず、その面倒さと複雑さで大半の人は挫折する。したがって、PCに強いオタク族しかe・Taxは利用できない。

このような制度面に関するアンバランスだけではなく、高度な技術を要求される科学的な分野でも空間識失調が起きている。最近話題の電力会社が設置するスマートメーターも一例である。

欧州一、律義な国と自他ともに認めるスイスでは、電気の検針は一年に一回だけである。それでも何の不都合もない。日本では、政府の指導で電力会社は一個二〜三万円するといわれるスマートメーターを各戸に取り付け、三十分ごとに検針をするそうである。専門委

員会では、数分単位で検針することをも検討しているとか。

自然エネルギーを利用した小規模発電を普及させるためには、そのような電力管理システムが必要であり、また電力消費の「見える化」を実現して、需要家によるピークカットを促す料金契約を可能とするのが、設置の理由だそう。

しかし、電力使用量は、その地域でプールされた電力を多くのユーザーが利用して平準化されるものである。例えば、東京電力管内での使用量は多数の利用者の消費の総量であって、平準化される。スマートメーターで各戸の使用量をリアルタイムでモニターすることは、いわば琵琶湖に流れるすべての水、すなわち、すべての山の斜面に降る雨量を個別に、すべての屋根に降る雨量を個別に、そしてすべての道路に降る雨の量を個別に、それぞれリアルタイムで測らなければ琵琶湖の水位の予想ができないと主張することに等しい。

また、電力使用量を常時モニターすることをしてまで節電に努力する家庭がいかほどあるだろうか。

これらのために、全戸に強制的にスマート

メーターを設置し、膨大な経費をかけて複雑なシステムを構築する必要性は本当にあるのだろうか。

脱原発論も少数政党乱立も

電力と言えば、脱原発の議論も然りである。誰も原発のような危険なものは近くには置きたくない。しかし、有限な化石燃料や、まだ十分に開発されていない再生可能エネルギーだけに、直ちに依存することが不可能なことは小学生でもわかる現実である。原発を停止したままに放置することは、まさに空間識失調で日本国が墜落に突き進むことは明白だ。少数政党乱立の現象も空間識失調現象である。「政党」とは、共通の政治的主張や目的

を掲げ、政策の実現と政権の獲得を目指して行動する集団である。政権の獲得を目指すならば、小異を捨てて大同に就き、多数党になることを目標としなければ存在意義は小さい。名前を覚えられないほどの新しい小政党が乱立すること自体、政党活動の目的から逸脱していると思える。

ところが、逆に「卒原発」のみで、他は明らかに考え方の異なる小政党が糾合する現象も起きている。いくら糊塗しても国政を担う体系的な政策目標を持った集団には見えない。選挙を有利にするためとはいえ、そのような政党が賢い国民の支持を得るとはどういう思えない。これらの動きは拠って立つべき大局を見失っており、まさしく空間識失調ではないか。

技術進歩が凡俗法則を倍加

このようにバランスを欠いた現象がいたるところで出現しているが、これは近年の急速な技術進歩と情報化の進展の結果ではなからうか。

人間には、何事にも高度化、完璧化しようという習性がある。そのおかげでこれだけの文明を築いたわけだが、その習性は一方で、パーキンソンの凡俗法則(Parkinson's Law of Triviality)を生み出し、「組織は些細な物事に対して不釣り合いなほど重点を置く」のである。



内海善雄(うつみ よしお)

1942年香川県高松市生まれ。東大法学部卒。東芝を経て66年郵政省(現総務省)入省。電気通信の自由化など、通信放送政策を長く担当。98年国際電気通信連合(ITU)事務総局長就任。現在は財団法人「海外通信・放送コンサルティング協力」理事長。早稲田大学客員教授。

このように最近の急速な技術進歩と情報化が、些細な細部までも完璧化することを容易にさせ、人間の空間識失調に陥りやすい習性を倍加させてしまった。常に地平線を意識し、大局観に立つことに努力しなければ、墜落していることさえもわからない空間識失調症候群に罹る時代になったのだ。

こんな現象は奇怪だというバランス感覚が必要なのだ